

調査方法

調査目的：卒業生の在学時及び卒業後の状況把握

実施日：令和元年8月17日

調査方法：卒業後30周年同窓会にて出席者に質問紙を配布し、各テーブルに設置された封筒にて回収を行った。

調査対象：卒業後30周年同窓会出席者（平成元年3月卒業生）

集計人数：有効回答222（対象者：231名 回収率：96.1%）

なお、学部・学科ごとの回答状況は以下のとおりである。

文学部 71名（社会学科：11、国語国文学科：9、英語・英米文学科：17、史学科：7、
地理学科：3、教育学科：24）

理学部 68名（数学科：18、物理学科：16、化学科：19、生物学科：15）

家政学部 83名（食物学科：20、被服学科：25、住居学科：20、生活経営学科：18）

調査結果

卒業直後の進路

卒業直後の進路を学部ごとにグラフにしたところ、図1の結果となった。

文学部は他学部と比べて中学・高校教諭の割合が高かった。理学部・家政学部は民間企業業務の割合が高く、内訳としては、理学部は研究・技術職がほとんどで、家政学部は技術職だけでなく事務職の割合も同様に高かった。また、理学部の大学院進学者は昨年度調査と比べて減少（12.3%→5.9%）しており、その分就業者の割合が増加したと考えられる。

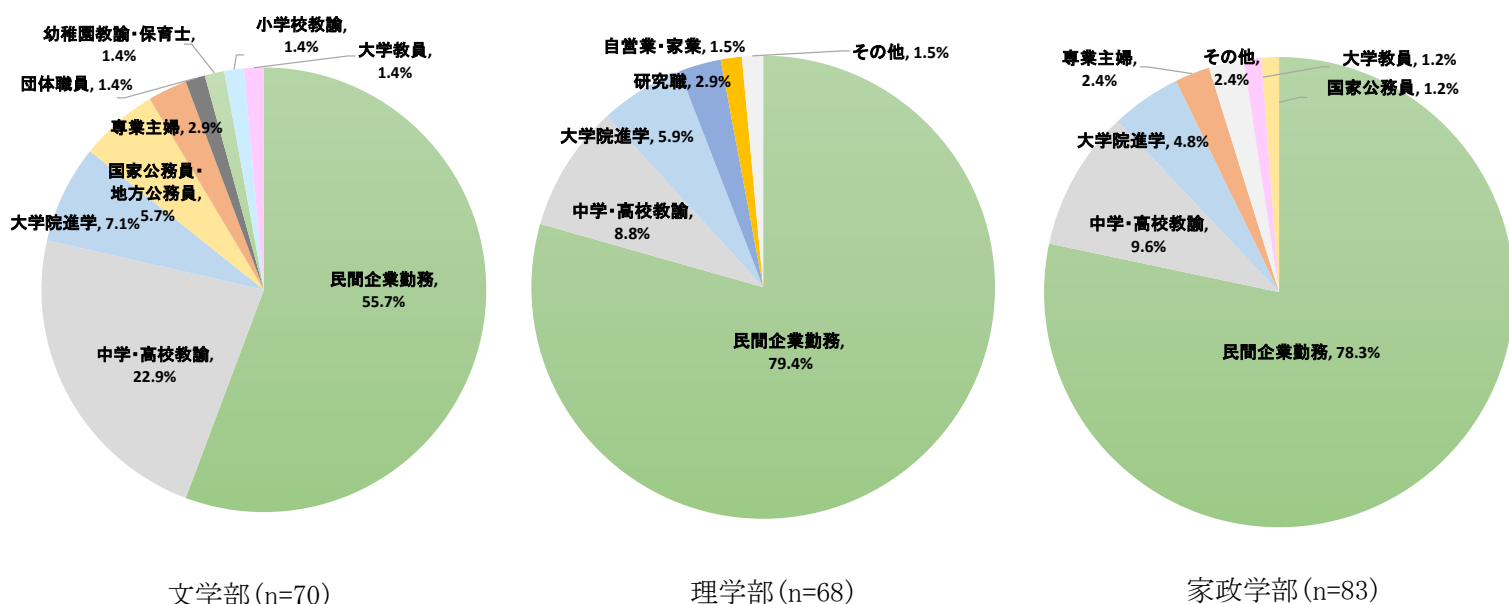


図1 卒業直後の進路

次に、卒業直後の就職先での勤続年数について、ヒストグラムを作成したところ、最初の職場で勤続している者が最も多かった（図2）。卒業直後の就職先を離れるタイミングとしては、卒業後2～5年が最も多く、10年を経過すると離職者数が下がることが分かった。これは昨年度行った振り返り調査の結果と同様の傾向である。

また、勤続30年の卒業生（34名）の職種として多いものは民間企業（22名）で、続いて中学・高校教諭（7名）、地方公務員（2名）、自営業・家業（1名）であった。特に、中学・高校教諭、地方公務員、自営業・家業については母数は10名と少ないが、他の業種よりも勤続年数が長い傾向にある。一方で、民間企業勤務に関しては6年以内の離職率が最も高く、就職者158名のうち離職者は54名であった。

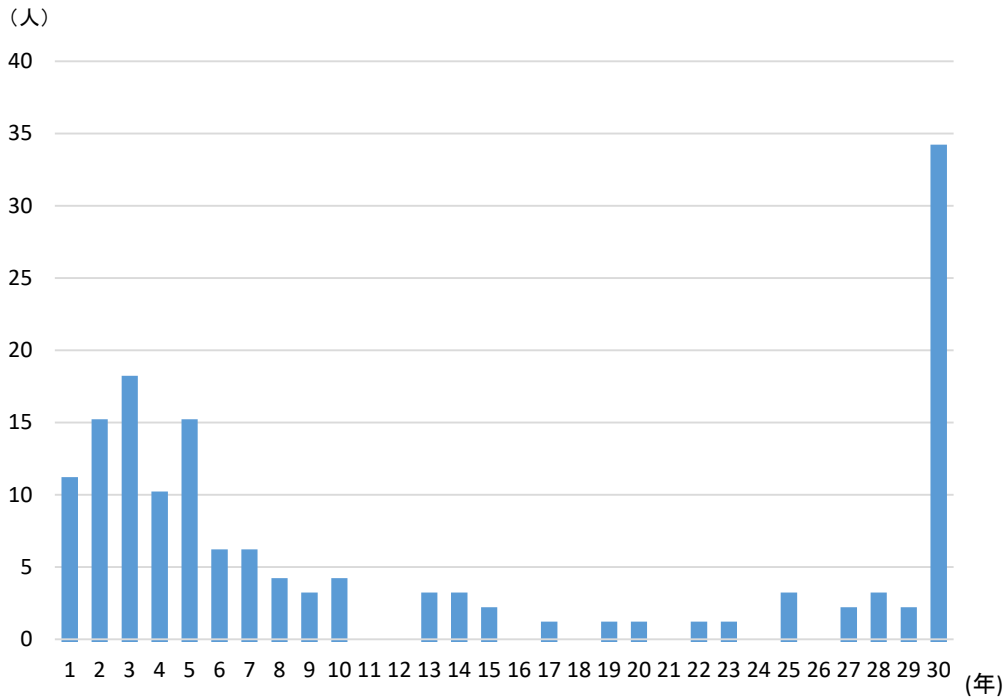


図2 勤続年数の度数分布 (n=149)

現在の状況

現在の状況について、学部ごとにグラフ化したものが図3である。全体として、専業主婦、自営業・家業、公務員、大学教員、団体職員の割合が増加している。また、雇用形態は、卒業直後には有職者197名中192名(97.5%)が正規雇用であったのに対して、現在は有職者135名中、正規雇用が84名(62.2%)と減少している。これは、離職・退職して専業主婦になっている者が多くいることが要因であると考えられる。

学部ごとにみると、文学部・家政学部は自営業・家業の割合が卒業後よりも高くなり、理学部は現在も半数が民間企業勤務であることがわかる。団体職員は3学部とも同程度、大学教員は文学部と家政学部で増加している。

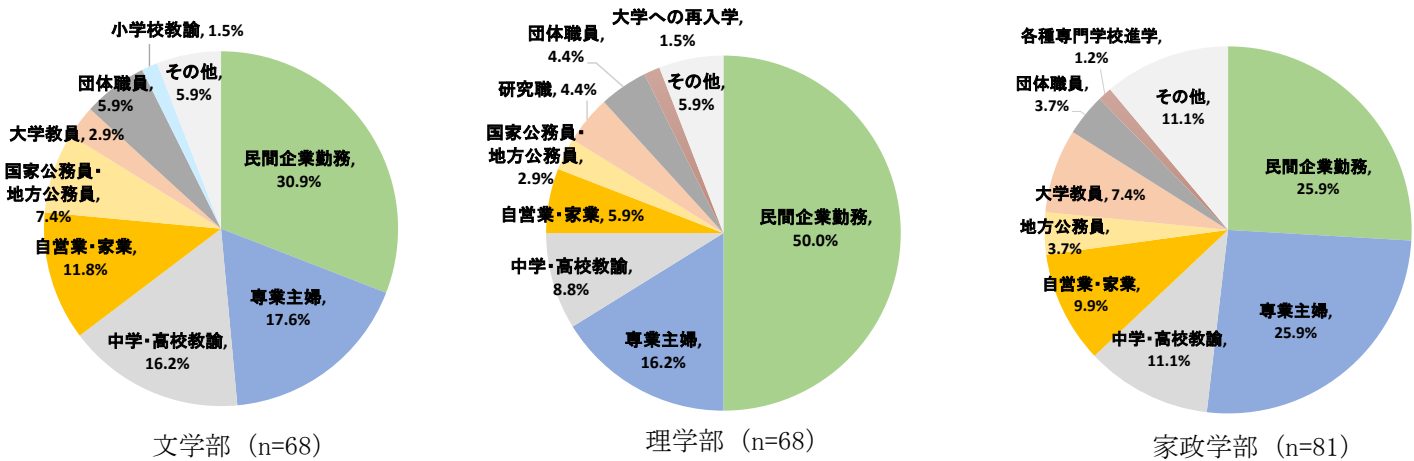


図3 現在の状況

卒業直後と現在の状況比較

卒業直後と現在の状況はどのように異なるのかを集計したところ、表1のようになった。民間企業勤務者、自営業・家業、中学・高校教諭、国家公務員・地方公務員においては、卒業直後の進路と現在の状況では同じ職種で勤務している割合が高いことが分かった。また民間企業勤務者は卒業直後は7割以上だったのに対し、現在は3割程度にとどまり、一方で専業主婦の割合が高くなった。

次に、民間企業勤務者の卒業直後と現在の状況におけるさらに細かい職種別での集計をしたところ表2のようになった。卒業直後は研究・技術で採用された割合が6割と高くなっているが、現在は事務または管理の業務に従事している割合が高くなっていることがわかる。

表1 卒業直後の進路と現在の状況のクロス集計

		卒業直後の進路 大分類									
		民間企業勤務	団体職員	自営業・家業	中学・高校教諭	大学教員・研究職	国家公務員・地方公務員	大学院進学	専業主婦	その他	合計
現在の状況 大分類	民間企業勤務	73 33.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	76 34.5%
	団体職員	5 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	1 0.5%	0 0.0%	10 4.5%
	自営業・家業	15 6.8%	0 0.0%	1 0.5%	3 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	20 9.1%
	中学・高校教諭	4 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	20 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	26 11.8%
	大学教員・研究職	5 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	0 0.0%	3 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	11 5.0%
	国家公務員・地方公務員	6 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.8%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.5%	12 5.5%
	各種専門学校在学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%
	大学への再入学	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
	専業主婦	35 15.9%	1 0.5%	0 0.0%	3 1.4%	2 0.9%	0 0.0%	2 0.9%	1 0.5%	0 0.0%	44 20.0%
	その他	14 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	3 1.4%	19 8.6%
合計	158 71.8%	1 0.5%	1 0.5%	30 13.6%	4 1.8%	5 2.3%	13 5.9%	4 1.8%	4 1.8%	220 100.0%	

表2 民間企業勤務における卒業直後と現在の状況のクロス集計

		卒業直後の進路 大分類						
		事務	営業	企画	販売	管理	研究・技術	総計
現在の状況 大分類	事務	6 13.6%	2 4.5%	2 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	11 25.0%	21 47.7%
	営業	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%	4 9.1%
	企画	0 0.0%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	2 4.5%
	販売	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%	2 4.5%
	管理	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	5 11.4%	8 18.2%
	研究・技術	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 13.6%	7 15.9%
	総計	7 15.9%	4 9.1%	4 9.1%	1 2.3%	1 2.3%	27 61.4%	44 100.0%

大学で身についた能力・資質

各能力・資質について、大学で身についたと思うかたずねたところ、図4～図6の結果となった。文学部の結果を図4に示す。「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かった項目は、一般教養・知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった。対して、語学力、IT活用能力は「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であった。

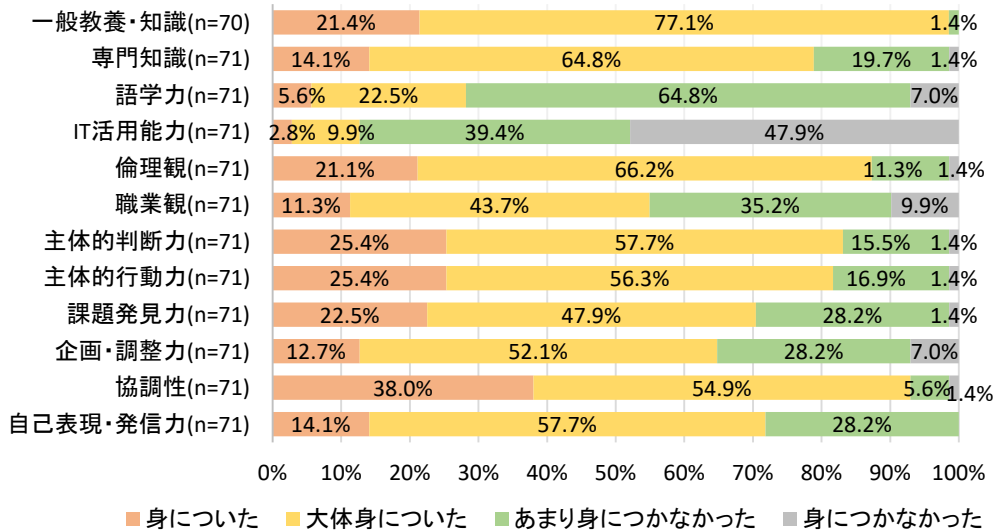


図4 文学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

理学部については、「身についた」、「やや身についた」と回答した割合が高かったのは、一般教養・知識、協調性であった。(図5)。対して、語学力、IT活用能力、職業観は「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であった。

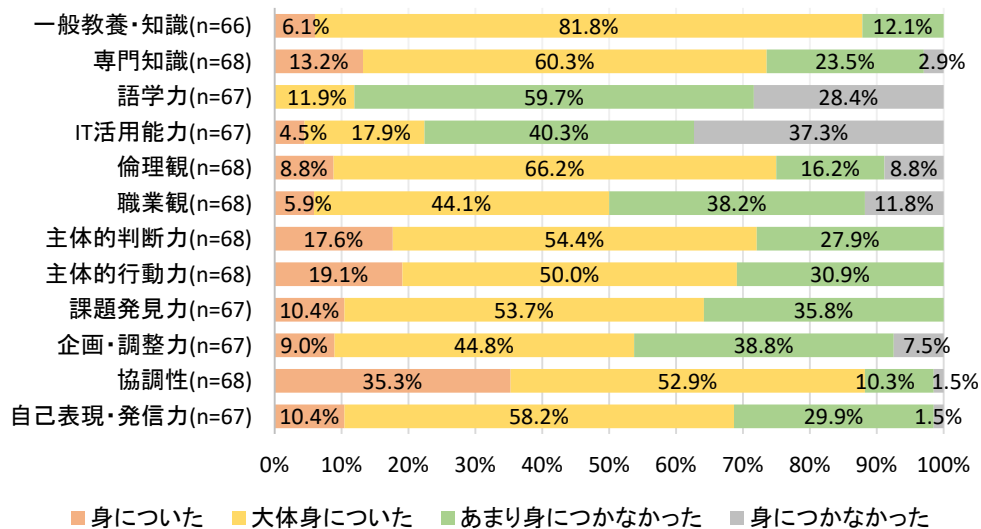


図5 理学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

家政学部については、「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かったのは、一般教養・知識、協調性であった(図6)。対して語学力、IT活用能力は「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であった。

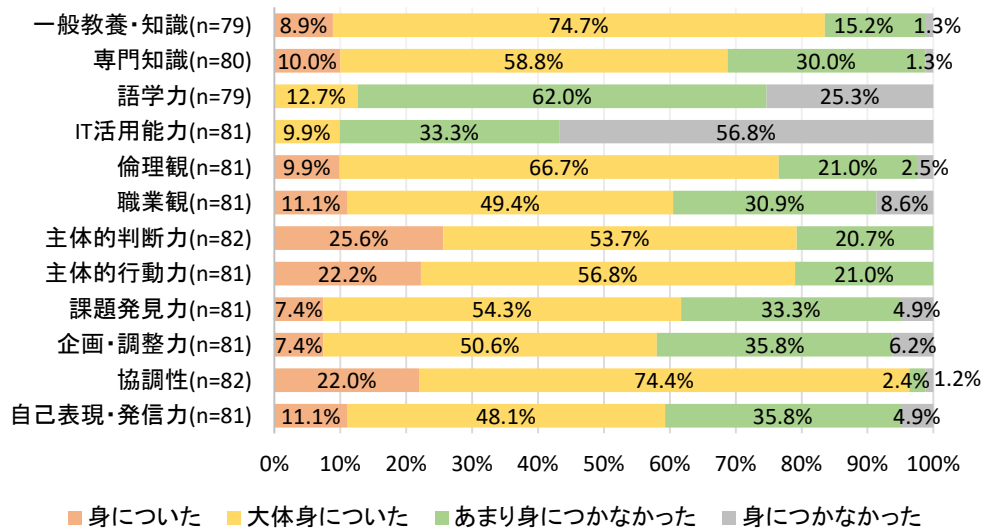


図6 家政学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

在籍中に身についた能力・資質の学部間の平均値に統計的に意味のある差（有意差）があるのかを調べるため分散分析^{*1}をおこなった。その結果、一般教養・知識(F(2, 212)=8.108, p<.01)、語学力(F(2, 214)=10.143, p<.01)、IT活用能力(F(2, 216)=4.196, p<.05)、倫理観(F(2, 218)=4.451, p<.05)に有意差がみられた。各学部の平均に有意差があった際に、どの学部とどの学部間に有意差があるか調べるため多重比較^{*2}をおこなったところ、一般教養・知識、語学力、倫理観は文学部と理学部・家政学部、IT活用能力は理学部と家政学部の間にそれぞれ有意差がみられることがわかった。

この4項目について、3学部の分布を比較したものが図7である。一般教養・知識、倫理観で在籍中に能力が身についたと回答した者が3学部で8～9割近い結果となり、語学力については文学部、IT活用能力については理学部が身についたと回答した者が他学部比べて多かった。語学力及びIT活用能力は各学部の専門性にも関連してくるといえる。

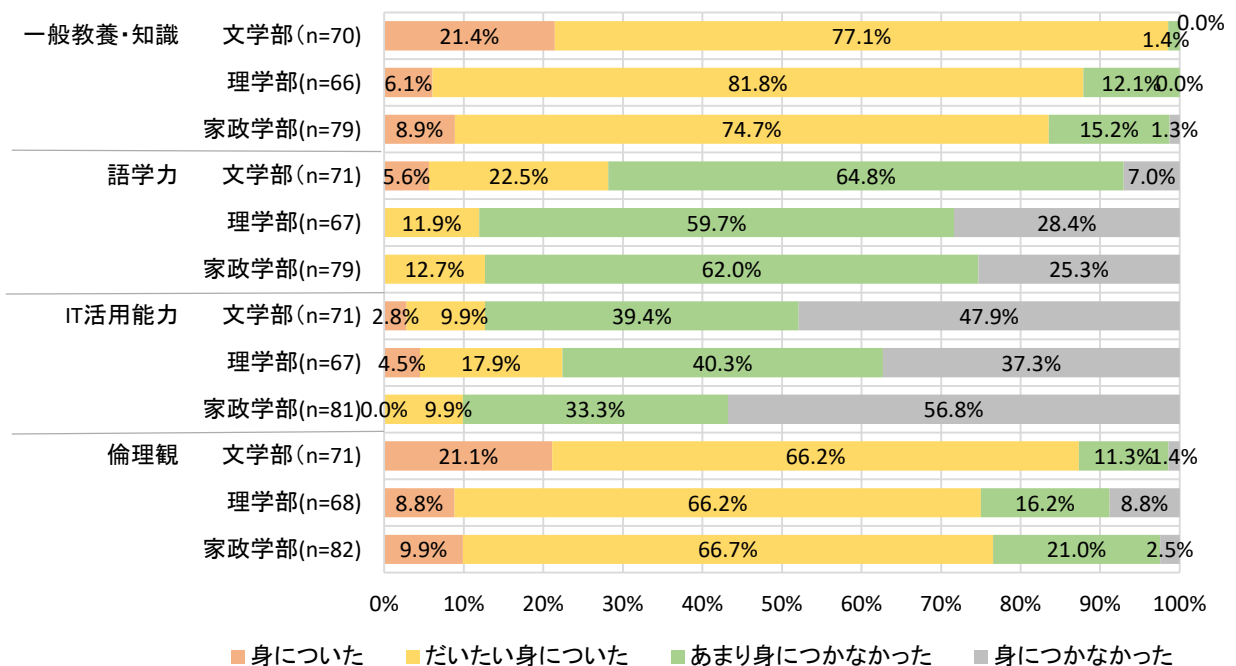


図7 卒業生が在籍中に身についた能力・資質の学部間比較
(平均値に有意差があった項目を抜粋)

なお、これらの能力・資質の中で「在学時、身につける必要性を感じていなかったもの」についてもたずねたところ、挙げた項目はそれほど多くはなかったが、一番多かったものがIT活用能力で、222名中24名が身につける必要性を感じていなかったと回答した。続いて多かったのは職業観（6名）であった。

また、能力・資質のうち、今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるものを重要と考える順に3つまで回答してもらったところ、図8のような結果となった。

専門知識、語学力、主体的判断力、主体的行動力、課題発見力、自己表現・発信力といった項目が重要だと考えられており、対して一般教養・知識、倫理観、職業観、企画・調整力、協調性といった項目は重要度が低かった。また、「最も重要」と考えられていた項目は語学力、専門知識、主体的判断力であった。

※1 分散分析：3群以上からなるデータの母平均の差を検定する際に使用する分析方法。

※2 多重比較：3群以上の観測値において、どの群間において母平均の差があるのかを検定する手法。

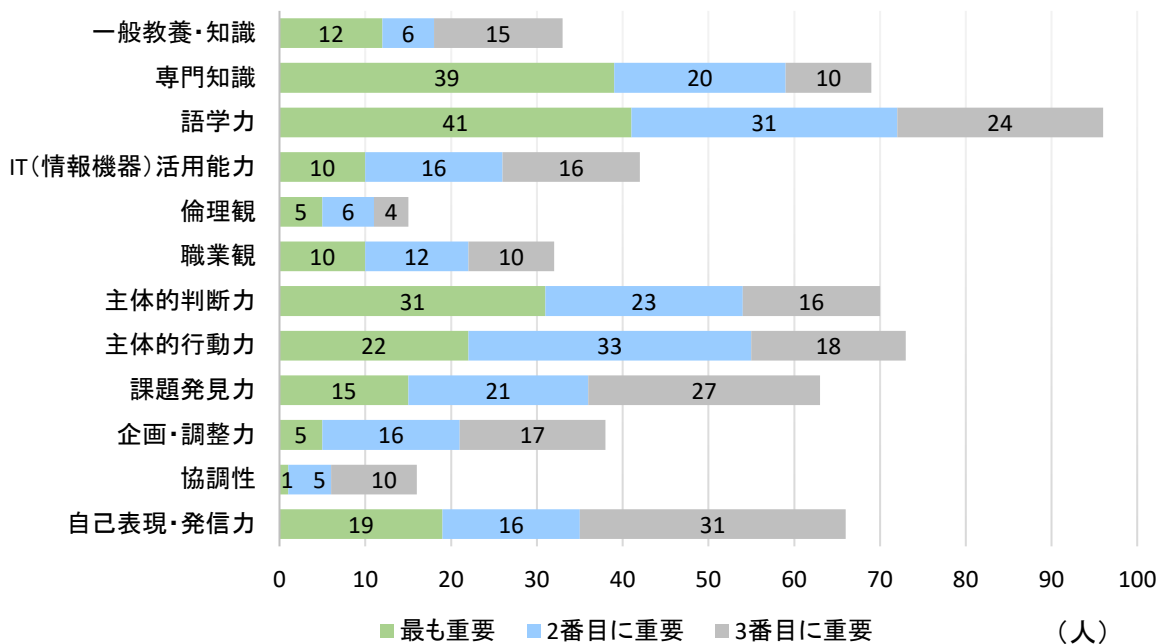


図8 重要だと考える能力・資質 (n=210)

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているもの

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについて自由記述で尋ねたところ、134件の回答があった。具体的に授業名や教員名を上げて記入した回答が多かった。授業に関しては、ゼミや実験、研修旅行についての内容が多くみられた。

大学で再び学ぶことについて

今後また大学で学びたいと思うか尋ねたところ、40.9%の83名が学びたいと思うと答えた（図9）。主な回答は以下の通りである。

大学で学びたい理由	件数
専門知識を学びたい	12
時間の余裕ができたから	4
大学時代はあまり勉強していなかったから	7
現在の職業に活かしたいから	11
興味のあることを学びたいから	29
その他	10
理由なし	10

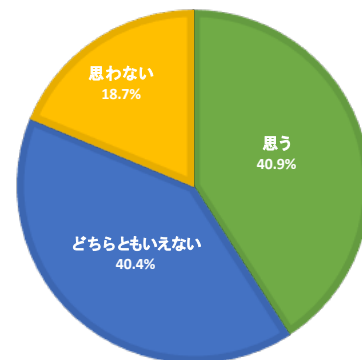


図9 今後また大学で学びたいと思うか

対して、大学での学びなおしについて「どちらともいえない」、「思わない」と回答した120名に対し、その理由を尋ねたところ、一番多かった回答は時間的な面で余裕がないという内容であった。ほかの回答は以下の通りである。

大学で学びたいと思わない理由	件数
余裕がない（時間的な面）	20
距離的に通学することが困難	7
費用の負担が厳しい	11
学びたいという意欲がない	6
興味なくはないが、通いたいというレベルには達しない	9
その他	12

他にも、学びたいと思わない理由として、年齢的な問題や学びなおしをする場所が本学でもなくてもよいとの回答もあった。

図10は卒業生の現在の居住地である。この図から見て取れるように、約半数の卒業生が近畿圏にいる。その一方で関東・甲信越地方、東海・北陸地方に合わせて4割の卒業生がいることもわかった。この結果から、卒業生の学びなおしについて、通学するとなると距離・時間・費用的な面でも大きな負担となるため、学びなおしをしたいと思ってもなかなか行動に移せないのが現実であると考えられる。こうした卒業生にもっと「学び」というものを身近に触れてもらうには、サテライトキャンパスでの公開講座や通信授業の開講が有効であると考えられる。実際に今回のアンケートでも自由記述の欄に多くの意見が寄せられた。

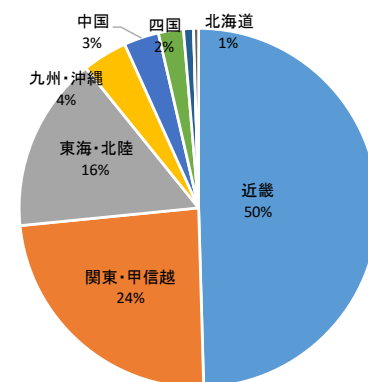


図10 現在の居住地

現在在籍している学生に対するサポート

現在在籍している学生に対して、本学が行うと良いと思われるサポートについて尋ねたところ、91件の回答があった。これを分類すると、就職・社会進出、国際（語学力・留学）に関するサポートへの意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

◆ 就職、社会進出

就職、社会進出に関するサポートへの意見が24件あった。就職活動へのサポート、卒業生へのOG訪問や交流会の開催、インターンシップなどが挙げられていた。

そのほかにも社会人としての生き方や社会で役立つような研修などの導入、また就職活動を行う学生と企業を大学側がつなぐ企業連携プログラムを行うべきだという意見も寄せられた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプランニング支援 ・企業へのインターンシップ ・企業との連携プログラム |
|--|

◆ 国際

国際教育に関する意見が21件あった。ただ英語を学ぶだけでなく留学や語学研修を通じて、使いこなせるレベルまでもっていくことが必要だという意見が多い。

- ・留学の機会の充実・強化、サポート
- ・語学教育
- ・交換留学制度

◆ I T

I T関連のサポートに関する意見が5件あった。近年、I T能力は社会でも重要視されていることから、学部や学科に絞らず、全学的に実施していくような意見も寄せられた。

- ・社会で求められている実学スキルカリキュラム
- ・パソコンのスキルアップ

◆ 実践力

実践力に関する意見が8件あった。学生時代から、社会に出ても使われる表現力やプレゼン能力、発信力などを身につけておくべきであるという意見が多かった。

- ・実社会に出すぐ役に立つコミュニケーション力、プレゼン能力、自ら発信する力を身につけること。
- ・自分の考えをまとめた的確に人に伝えるスキルを上げてほしい。(会社に入ってから、自分のプレゼン能力の低さを痛感しています。)

◆ 自立・人間力

自立・人間力に関する意見が5件あった。

- ・専門知識もさることながら、人間力を高める教育。
- ・自立した女性を目指してほしい。

大学に求めるもの

「今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか？」という設問に対し、86件の回答があった。

これを分類すると、「大学の存続と発展について」、「卒業生に対する支援」、「公開講座、学び直し」、「女子大学としてのブランド維持」への意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

◆大学の存続と発展について

大学の存続と今後の発展についての意見が12件あった。

この中の多くは奈良女子大学の伝統や格式を保ち、このまま女子大であり続けてほしいとの意見であった。

- ・伝統と格式を持ちながらも、最先端の研究を続け、女性活躍のパイオニアを育成する大学として継続してほしい。
- ・今まで通りの奈良女子大学を守っていただきたいと思います。そして新しいことにチャレンジもしていただくと卒業生としては楽しみです。

◆卒業生に対する支援

卒業生に対する支援についての意見が6件あった。

- ・卒業生に対する発信や企画
- ・卒業生が大学に訪れる機会が増えるようなイベントなどの企画

◆公開講座、学び直し

公開講座や学び直しについての意見が25件あった。

- ・卒業生に対する公開講座や勉強会
- ・通信で学べるコースの開設

- ・市民講座の開設や図書館の利用
- ・親しみのあるテーマでの講座（「古い」や「ジェンダー」、「古都文化」など）

◆女子大学としてのブランド維持

女子大学としてのブランド維持についての意見が12件あった。

- ・女子大学の人気低迷の中で、外に向かって女子大の利点をアピールしてほしい。
- ・女子大として続けてほしい。
- ・女子大としての教育のあり方を続けてほしい。

他には、世界に向かってのアピールや母校が輝いているということがわかるような情報発信などが寄せられた。

奈良女子大学卒業生の振り返り調査

(令和元年8月 実施)

奈良女子大学では、女子高等師範学校の頃から百有余年の間にここ「奈良」の地で培った「女性リーダーの育成」の実績を活かし、次世代へつなぐ人材の養成と研究の展開に取り組んでいます。

特に人材の養成においては、卒業生が大学での「学び」をどのような形で個々の礎とし、社会生活の中で生かしているかということが、本学の教育のあり方を検討するにあたり重要な観点であり、今後、継続的に調査していきたいと考えております。

今現在、本学に在籍する学生が有意義な学生生活を送るため、ご協力の程よろしくお願いいたします。

ご記入上のお願い

- ・設問1)～4)まではあてはまる回答についている数字を○で囲んでください。
「その他」にあてはまる場合は、その数字を○で囲み、()の中に具体的な内容をご記入ください。
- ・○は各質問ひとつずつ付していただくよう、お願いします。
- ・お答えになりにくい質問には無理にご回答いただかなくてもかまいません。
- ・ご回答は統計処理され、決して個人が特定できることはございません。
- ・ご回答いただきました調査票は、各テーブルにございますアンケート回収袋に入れていただきますようお願いいたします。
- ・調査に関するご質問は、下記連絡先までお問い合わせください。

【本件担当】

奈良女子大学 学長調査戦略室

(事務担当)

総務・企画課大学改革推進係

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3692

E-Mail hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp

1) 本学で在籍した学科を教えてください。

[学部] (文学部は専攻名、理学部・家政学部は学科名で、該当するものに○)

- 文学部** 11. 社会学科 (111. 哲学専攻 / 112. 社会学専攻)
12. 国語国文学科 (121. 国語国文学専攻 / 122. 中国語・中国文学専攻)
13. 英語・英米文学科 (131. 英語・英米学専攻 / 132. 言語文化学専攻)
14. 史学科 (141. 日本史学専攻 / 142. 東洋史学専攻 / 143. 西洋史学専攻)
15. 地理学科
16. 教育学科 (161. 教育学専攻 / 162. 教育方法学専攻 / 163. 心理学専攻 / 164. 体育学専攻)

- 理学部** 21. 数学科 22. 物理学科 23. 化学科 24. 生物学科

- 家政学部** 31. 食物学科 32. 被服学科 33. 住居学科 34. 生活経営学科

2) 上記で答えていただいた奈良女子大学卒業直後の進路について教えてください。

(該当するものに○)

2-1 進路

01. 民間企業勤務 (011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 016. 研究・技術)
02. 団体職員 (021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職)
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭
07. 大学教員 (研究分野 :) 08. 研究職 (07 以外) (研究分野 :)
09. 国家公務員 (091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)
10. 地方公務員 (101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)
11. 大学院進学 (大学 専攻) 12. 各種専門学校進学
13. 大学への再入学 14. 留学 15. 専業主婦 16. その他 (具体的に)

《 2-1 で 01~10 を選ばれた方は、以下の 2-2~2-4 にもお答えください 》

- 2-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ()
2-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ()
2-4 最初に就職したところでの勤続年数 () 年

3) 現在の状況について教えてください。(該当するものに○)

3-1 現在の状況

00. 変化無し
01. 民間企業勤務 (011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 016. 研究・技術)
02. 団体職員 (021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職)
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭
07. 大学教員 (研究分野 :) 08. 研究職 (07 以外) (研究分野 :)
09. 国家公務員 (091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)
10. 地方公務員 (101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)
11. 大学院在学 (大学 専攻) 12. 各種専門学校在学
13. 大学への再入学 14. 留学中 15. 専業主婦 16. その他 (具体的に)

《 3-1 で 1~10 を選ばれた方は、以下の 3-2~3-3 にもお答えください 》

- 3-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ()
3-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ()

8) 大学での学び直しについて、お尋ねします。

8-1 今後また、大学で学びたいと思いますか。(該当するものに○)

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない

8-2 (1. 思う) を選ばれた方は、その理由と学びたいことを、(2. どちらともいえない 3. 思わない) を選ばれた方は、その理由(費用、距離、興味の有無等)をお答えください。

[]

9) 現在在籍している学生に対し、本学が行うと良いと思われるサポート等、ご意見がありましたらお聞かせください。(「〇〇の教育を取り入れると良い」、「△△のシステムを充実させてあげて欲しい」等)

[]

10) 今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか?

(「卒業生に対し、〇〇の講座を開いて欲しい」「△△のサービス提供をして欲しい」等)

[]

ご協力ありがとうございました。